

References

- 1) Howell, J. T., Proc. Calif. Acad. Sci. Ser. 4, 22: 222 (1941). 2) Ono, M., Journ. Jap. Bot. 42: 353 (1967 a). 3) Eliason, U., Botaniska Notiser. 123: 149 (1970). 4) Harling, G., Acta Horti Berg. 20: 63 (1963). 5) Hemsley, W. B., in Hooker's Icones Plantarum, (4), vol. 8: pl. 2715 (1901). 6) Ono, M., Noticias Galapagos 9-10: 16 (1967 b). 7) Ono, M., Biol. Sci. (Iwanami Publ. Co. Tokyo) 22: 1 (1970) (in Japanese).

* * * *

ガラパゴス群島特産のキク科木本であるスカレシア属 *Scalesia* 5種について染色体数を確認した。この属の染色体数に関しては、既に小野 (1967), Eliason (1970) により $2n=68$ が報告されているが、今回の結果を加えて同属の4つの系 (series) 全部にわたってこの数が確認された。染色体は比較的小さく、形態的に明らかな特徴は認め難いが、核型をほぼ確認したものについては、 $K_{(n)}=34=26V+8J$ で、中央部付近に狭搾をもつもの26対と、次端部にもつもの8対が認められた。ただし1種 *S. Stewartii* では最小の1対が中央部に狭搾のある小さな染色体でその核型は $K_{(n)}=34=26V+7J+1v$ と表示できる。この種が特徴ある葉状の総苞片をもつ Ser. Foliaceae に属し、サンチャゴ島とその付属小島にだけ生育する、ごく限られた分布の種である点は興味深い。この核型は、他の系の種に共通に見られる核型の、J染色体 (次端部狭搾) の1対が、その長腕の一部を失うことによって派生したとの推測も可能である。スカレシア属の系統に関しては、染色体基本数 ($x=17$) の比較から、中米産の半低木性キク科である *Tithonia* や *Viguiera* 属との関係を前に指摘したが、今回の観察結果はこれを補強した。また群島内で分化したこの属の全部の系について、同じ染色体数 ($2n=68$, 4倍体) が認められたことは、この属のガラパゴス群島への移住と定着が、この倍数性の成立に負うところ大きく、恐らくはそれ以前に大陸において、4倍体の成立が先行していたことを推測させる。

○初島氏のグミバナスについて (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: On the new Japanese name given by Dr. Hatsushima for *Solanum elaeagnifolium* Cav.

初島住彦博士の新著琉球植物誌 (1971) で同氏は *Solanum elaeagnifolium* Cav. にグミバナスなる新和名を提唱されたが、これは、佐野純雄氏が本誌 26 卷 (1951) p. 139 で用いられたラシャナスなる先行名称と重複する。初島氏の標本は見えていないが、佐野氏の当時の標本は東大資料館に蔵されている。 (東邦大学薬学部)